

熊さん 「何です露出計って？、露出狂なら得意なんでやすが…。今度一杯やったら、ストリーキングしてネのをやりやせんかい。からっ風の中、そりゃあ、気持ちのいいもんですぜ。ワッハッハ」。

御隠居 「馬鹿言ってるじゃねえよ、全く…。風呂屋に行くんじゃあるめえし。このトンチキめ…。で…。どうやって写真撮ってるんだい。……………おおっ、寒気が来ちまった…。」。

熊さん 「べっやっして…。そりゃあ…。ちやんとシャッターボタンを押して…」。

御隠居 「当たり前えだろ、そんなこと。あたしの言ってるのはそんなことじゃあねえんだ。実際に撮影する時、べっやっしてシャッター速度やレンズの絞り値を決めてるのかってえことさね」。

熊さん 「いや別に、これどいつたことは…。フィルムの箱に『シャッター速度が250分の1秒の時、快晴時の海・山・雪景色、f16、曇・日影、f4…』なんてえことが書いてあるから、なんとなくっつうか、そんなもんっつうか、そうしなけりゃカカアに叱られるっつうか、まあ、とにかく、おとなしくそれに従っているってえわけさね。これが…。アハハハ」。

御隠居 「で、例えばシャッター速度が250分の1秒でfが8ってえ書いてあった時、これを1000分の1秒で絞りをf4に変えたり、または60分の1秒でf値を16にしたいなんてえ思わねえのかい」。

熊さん 「ちよいとちよいと、いくら御隠居でも、『シャッター速度が250分の1秒でfが8』ってえ、偉え方がお決めくださって、それをお箱にお書きになってんだから、そう勝手に変えてもいいわきゃあねえだろう」。

御隠居 「へー、どこのお偉え方かしらねえが、どうして変えちゃあいいけねえんだい」。

熊さん 「そんなこと言ったって…。箱にそうしろって書いてあるから…。やっばしいけねえよ…。お天道さまに叱られらあ」。

御隠居 「変えたくなけりゃあ、バックをきれいにボカすなんてえことは、金輪際きっぱりと諦めな。悪いことあ言わねえから」。

熊さん 「御隠居、冷てえなあ。本当に変えちゃってもいいのかい。俺をからかっているんじゃあねえだろなあ。普段、俺が御隠居のことをタヌ公とかケチとか偏屈とか唐変木とか頑固爺イとか近所の連中に言いふらしてるから、仇を討とうってえ腹じゃあねえだろうな…」。

御隠居 「そうかい、おめエか。わしの悪口をふれまわっている張本人は。そうかい」。